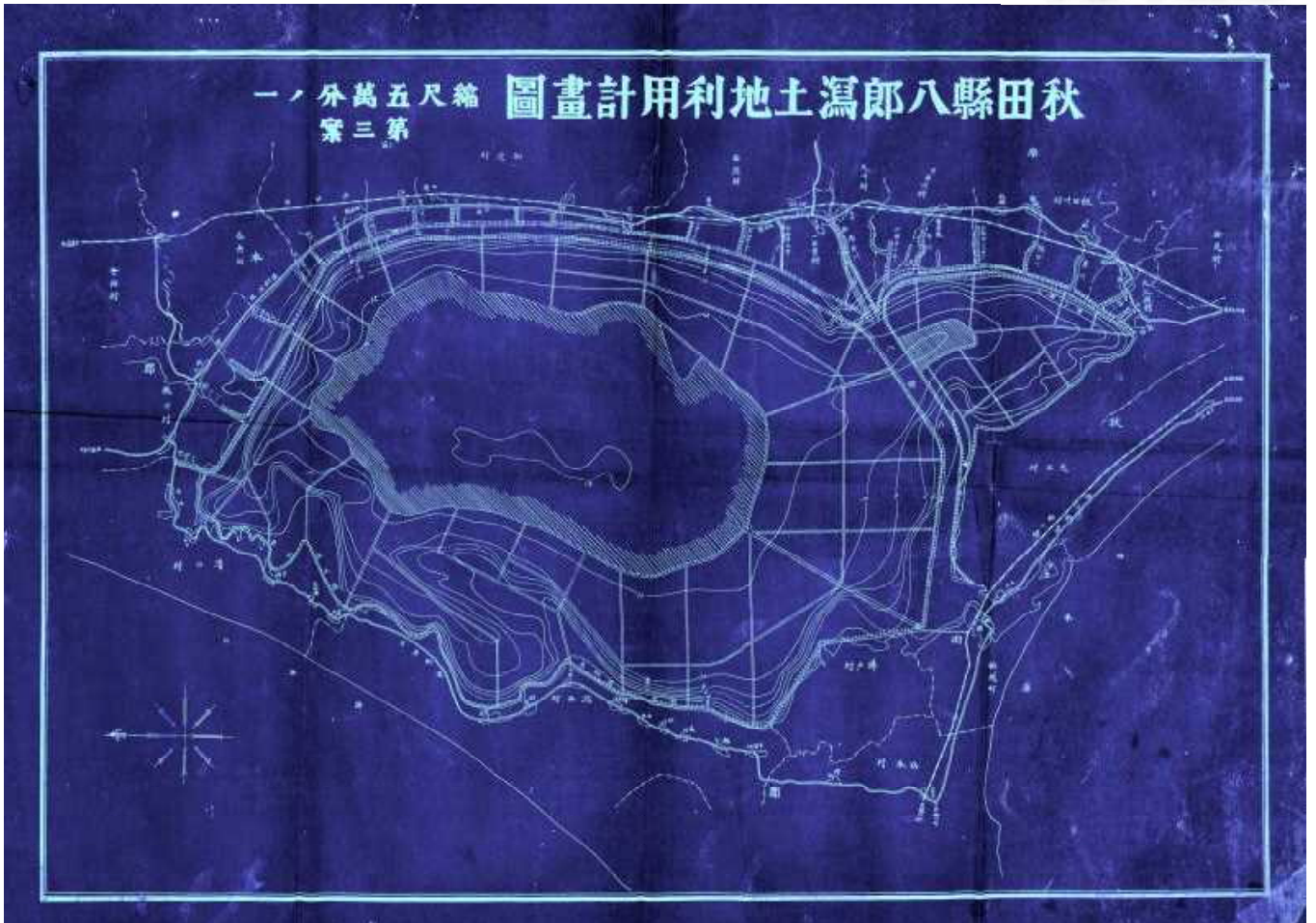


公文書館だより

第49号

令和7年6月5日



「秋田県八郎潟土地利用計画図 可知第3案」【昭和39年「八郎潟干拓事務所引継ぎ」(930807-30126)】

連携展「記録資料にみる大地創造」に展示する図面で、大正13年(1924)に農商務省技師の可知寛一が作成した第3案です。ポンプで排水し13,884haの干拓地を造成する計画で、残存水面は中央に描かれています。

今年度の行事予定

◆企画展

●地域連携展

「記録資料にみる大地創造」
・大潟村アーカイブズ・ギャラリー
・大潟村干拓博物館
8月1日～12月26日

・本館2階 特別展示室
前期 8月21日～9月28日
後期 10月2日～11月3日

◆公文書館講座

●古文書解読講座

(入門編)
5月16日・30日
6月20日・27日
7月11日・25日
(応用編)
7月18日(午前・午後)

●記憶の護り人養成教室

5月8日・6月19日
7月10日・8月7日
9月11日・10月9日
11月13日・12月11日

◆県政映画上映会

8月28日・29日

今後の情勢によっては変更の可能性もあります。ご了承ください。

回	実施日	時間	テーマ	講師
第1回	5/16（金）	10:30～12:00	鼠小僧次郎吉尋問書写を読む その1	畑中康博
第2回	5/30（金）	10:30～12:00	鼠小僧次郎吉尋問書写を読む その2	畑中康博
第3回	6/20（金）	10:30～12:00	変体仮名徹底攻略 その1	畑中康博
第4回	6/27（金）	10:30～12:00	変体仮名徹底攻略 その2	畑中康博
第5回	7/11（金）	10:30～12:00	武家文書を読む その1	柴田知彰
第6回	7/25（金）	10:30～12:00	武家文書を読む その2	渡部拓

応用編

回	実施日	時間	テーマ	講師
第1回	7/18（金）	10:30～12:00	秋田藩家蔵文書を読む―小野寺旧臣の文書をもとに―	佐藤一幸
第2回		13:30～15:00	「御亀鑑」を読む（2） ―秋府十・寛政5年8月朔日条を中心に―	伊藤勝美



令和6年度開催の古文書解読講座

今年度の古文書解読講座は、左の日程で5月16日から開催しております。本紙第48号で案内しましたが、「入門編」は全6回を連続して受講することで、くずし字解読の実力を養っていきます。第1・2回は、候文の言い回しなどから始め、徐々に古文書の中身に入りました。義賊として知られた鼠小僧を題材に、興味深く解読の基礎を学んでいきました。7月に開催の「応用編」は古文書の解読経験のある方を対象とし、「秋田藩家蔵文書」から戦国大名小野寺氏旧臣の文書、そして秋田藩9代藩主佐竹義和の業績を記した「御亀鑑」を読んでいます。歴史的背景の話を交えながら、古文書解読の醍醐味を楽しんで頂きます。

令和7年度の古文書解読講座（入門・応用編）

連携展「記録資料にみる大地創造」

今

年度本館では、大潟村教育委員会と連携し、連携展「記録資料にみる大地創造」を開催します。八郎潟は、かつて日本で二番目に大きな湖でした。この八郎潟を干拓し巨大な陸地を誕生させ、しかもそこに単一の自治体を設置する：日本史上最大の干拓事業を進める過程で、どのような公文書や図面が作成されたのか？を視点に資料を列品します。

展

示会場は「大潟村干拓博物館」と「秋田県公文書館」の二会場。日時・開館時間は次のとおりです。

○大潟村干拓博物館

日時 令和7年8月1日（金）

～12月26日（金）

開館時間 午前9時

～午後4時30分

休館日 9月まで

毎月第2・第4火曜日

（祝日の場合はその翌日）

10月から 毎週火曜日

（祝日の場合はその翌日）

入館料 大人300円

小中高高校生100円

○秋田県公文書館会場

「前期展」8月21日（木）

～9月28日（日）

「後期展」10月2日（木）

～11月3日（月）

開展時間 午前10時～午後5時

休館日 毎週水曜日

観覧料 無料

公

文書館会場では、前期・後期で資料を完全に入替えます。「前期展」では、主に湖を干拓地にするまでを扱います。昭和39年（1964）新村の名称を公募した際に応募された1位から180位までの村名案を一挙に展示します。

「後期展」では、大潟村政の始まりと防潮水門をテーマに展示します。また干拓工事開始から完工までの写真やドローンと展示！これは圧巻です。

拓博物館会場は、公文書館資料と同じものもあり、またこちらだけのものもあり、両館に足をお運びくだされば、違いを楽しむことができます。

皆さま、乞う御期待。

【畑中康博】

干

拓博物館会場は、公文書館資料と同じものもあり、またこちらだけのものもあり、両館に足をお運びくだされば、違いを楽しむことができます。

皆さま、乞う御期待。

【畑中康博】

「県政映画関係綴」

昭和30・31年度の記録

分館世帯

戦前から映画館では、本編映画の幕間にニュース映画を上映していました。昭和15年（1940）には国策で「日本ニュース」が制作され、戦後は「読売国際ニュース」「東映ニュース」ほか多数が参入しました。当館が開館した平成5年（1993）、「毎日ニュース」の終刊でニュース映画の歴史は幕を下ろしました。

当館では、開館当日から秋田県制作の「県政ニュース」を閲覧公開に供しています。平成21年（2009）からは、毎年「県政映画上映会」も開催し、好評を博してきました。

今回は昭和30・31年度「県政映画関係綴」（930103-30515）を紹介します。戦後の映画黄金期、昭和30年（1955）には映画館入場者数が8億7千万人近くに上っていました。既に20年代には、映画館の集客力を利用し、20年代末の秋田県では、大判広報誌「県政グラフ」、写真広報板（秋田駅、県庁）、巡回広報バスが視聴覚広報の手段でした。

昭和29年、公選2代目の池田徳治知事の任期四年目、秋田県政は市町村合併、八郎潟干拓調査、鎧畑発電所建設など大事業に向かって、広く県民の理解を必要としていました。そこで、知事室総務課広報係では、「宮城ニュース映画」を参考にして、翌30年、公選3代目の小畑勇二郎知事の就任後に県政映画「県政だより」第1

号を完成し公開しました。映像は、広報係の備品の16ミリカメラで撮影したものでした。

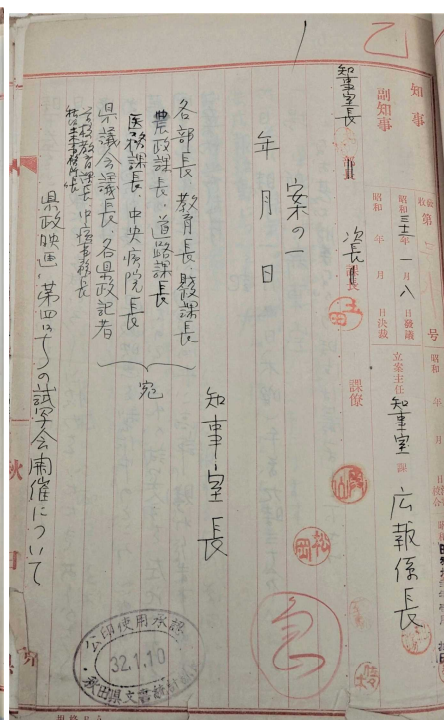
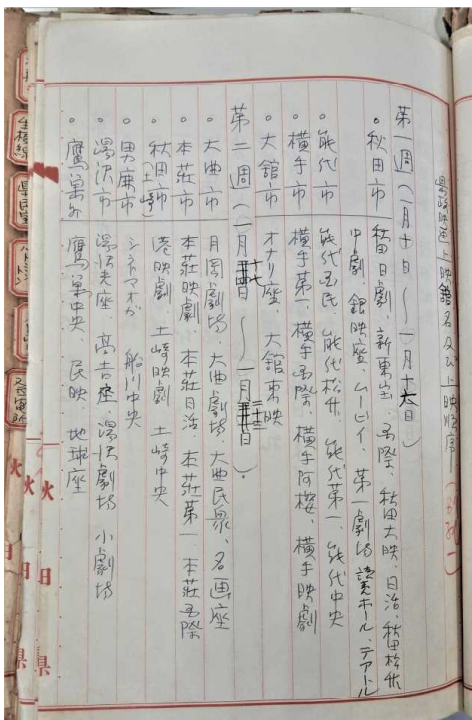
当初、「県政だより」による広報は、県庁でフィルムを保管し、官公署・学校・各種団体に貸し出す方式でした。第3号からは県視聴覚ライブラリー（秋田・大館・横手）にフィルムを配給し、市町村長に利用の普及を依頼しました。しかし、細かな貸出手続きを要したため、県民が気軽に観られる映画ではありませんでした。そこで、昭和31年、東京都と千葉県の例に倣い、常設映画館への上映委託による方式に転換しました。「県政ニュース」と改称し、フィルムも映画館用に35ミリ判を使いました。

映画黄金期には週替わりで新作が映画館に掛けられ、次週以降は2番館から3番館へと巡回されました。「県政ニュース」もこの仕組みに乗り、4週間で県内各地の映画館に巡回しました。

昭和31年度からの食糧増産・地下資源及び森林資源開発の「総合振興五力年計画」を進めるため、映画館での広報は県民の理解と協力を得る上で絶大な効果を発揮しました。

下の写真は、昭和32年1月に公開された「県政ニュース」第4号の巡回上映スケジュールの一部です。広報係長による1月8日の起案文書に添付された「県政映画上映館名及び上映日程」です。起案文書自体には赤鉛筆で大きく「急」と書かれました。

それもそのはず！写真のとおり、第1週の上映開始は10日でした。1本の「県政ニュース」を映画館に掛けるまで、ぎりぎりまで時間と労力を費やした様子が窺えます。ほかにも、企画原案・制作経緯・広報活動など、県政映画誕生時の文書が山盛りです。上映会をお楽しみになった後、この「県政映画関係綴」もご覧になってみませんか。【柴田知彰】



カラー版「解体新書」!?

読者の声

まず、掲載した図をご覧ください。人体図で、人間の血管が鮮やかな着色で描かれています。これを描いたのは、石井忠行、幕末の藩士で、号を「伊頭園」と言い、「伊頭園茶話」などの随筆の執筆者として知られています。この図の出典は、「落穂籠」7巻（混架7—503）で、このほか、内臓や脳の図が書かれています。

さて、この図は「経絡二脈相連図」と題されていますが、その下に小さい文字で、「新書所引有写誤矣、今依本書正之」とあります。意味は、「新書の引くところに誤りがある。いま本書でそれを正しく示す」といったところでしょうか。

人体図と「新書」とくれば、ただちに思いうかぶのは「解体新書」です。同書の復刻版をあたってみると、11丁目の裏面に「動脈血脈篇図」として同じ図がありました。

したがって、『解体新書』の血脈図に誤った部分があるので、いまここでそれを正しく示す」として書き直したのがこの図ということになります。医者でもない者にしては大胆なもの言いですが、博覧強記の石井のことですから、他に「ネタ本」があつて、それによってこれを描いたのかもしれない。

それにしても、「解体新書」の元図は白黒ですから、この着色が石井のオリジナルなのか、興味ぶかいところです。

次に注目したいのは、冒頭に「以下四大洲論迄蝦蟇増毛初度越年在陣中写」とある点です。「四大洲論」とは、この図を初めとして、以下に描かれている臓腑図・泌尿器官図・脳の図の4つの図解を指しています。そして、それを書写したのは、蝦夷の増毛で越年した時だと書いています。幕府はロシアの接近に対応するため、安政6年（1859）に、東北諸藩へ蝦夷地を分領化する政策を断行しました。増毛は秋田藩領となり陣屋が置か

れました。石井は、慶応元年（1865）閏5月から同2年7月まで増毛に軍事要員として詰めています。この時、その増毛の陣屋でこの図を描いたのです。つまり、石井はこの増毛警備の出張にさいし、少なくとも「解体新書」を携えて出かけたということになります。さすが膨大な随筆文を残した石井。凡庸な武士の発想を超えています。【金森正也】

○以下四大洲論迄蝦蟇増毛初度越年在陣中写

経絡二脈相連図

新書所引有写誤矣
今依本書正之

液道歸入於骨空圖今畧

忠行文

左肩下絡脈所謂左缺盆骨下血脈即奇經管所入者也

大經脈 即動脈大經脈出于心左室

天窓動脈 右左

氣衝動脈

尺沢絡脈

委中絡脈

前面

人血動脈 右左

尺沢動脈

委中動脈

小海動脈

大谿動脈

大絡脈 即血脈大幹入于心右室

趺陽動脈

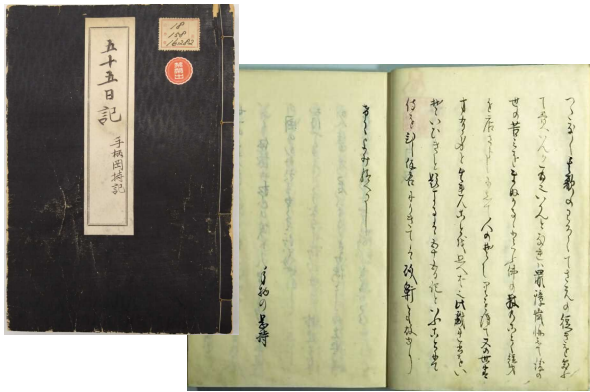
經脈者動脈也其所起為大幹其所終為細枝絡脈者血脈也其所起為細枝其所終為大幹故經脈之末支者無連絡脈之末支也經曰經絡之相貫如環無端邪氣藏府傳注貫此之謂也。大經脈者出於左而動焉大絡脈者入於右而靜焉陰陽表裏順逆此自然之理也

公文書館・図書館連携展示

「平沢常富とその時代」開催

秋田県公文書館・秋田県立図書館は今年で開館32年を迎えます。両館では、江戸の出版プロデューサーとして名高い蔦屋重三郎と組んで安永・天明期の黄表紙等の戯作本や狂歌の作家として活躍した秋田藩士平沢常富（号は「朋誠堂喜三二」、「手柄岡持」、「道蛇楼麻阿」等）による「手柄岡持自筆作品並びに関連資料」とし

「五十五日記」



て、秋田県指定有形文化財（書跡・典籍17）に指定されている資料を収蔵しています。

今回はこれら貴重な文化財資料やその他の出版物とともに、常富の秋田藩江戸留守居役としての活躍を知ることができる資料や今年のNHK大河ドラマ「べらぼう」蔦屋重三郎や常富が生きた江戸の街に関する資料等を展示します。

どうかご来館いただき、平沢常富とその時代をお楽しみください。

場所 2階 特別展示室

日程 5月29日（木）

7月1日（火）

時間 9時30分～17時

（ただし、6月4日、11日、

18日、25日は休館日）

【伊藤成孝】

「松茸図自画賛」



書庫内の環境管理

公文書館では、書類、資料を大切に保管するため、保管している書庫内の環境管理を行っています。

これは、週一回程度、温度、湿度が適正な数値内にあるかを、書庫内の温湿度計で測り、確認します。温度の適正数値は、公文書を保管する第1、第2書庫では、温度が22℃前後、湿度が40％～55％です。古文書を保管する貴重書庫では、温度が23℃前後、湿度が50％～60％です。

書庫内の温湿度は、外気の影響や書庫内の空調装置による管理の加減により、影響を受けるので、その数値を把握して適正数値外の状態が長く続くようなら、対策を取ることが必要です。温湿度が適正数値外になる時期は、6月の梅雨時、7、8月の夏場の、外気が高温多湿になる時が多いです。

また、書庫内に有害虫捕獲トラップを設置して、書庫内にいる虫を捕獲して、書類等に虫害が無いようにしています。

【中田暁】

出版・掲載・放映等 許可申請について

当館所蔵資料の複写物は、許可を受けていただければ、出版・掲載・放映又はウェブサイト等へ掲載することが可能です。映像資料の上映なども行うことができます。

許可申請があった場合、公文書館長は、①公文書館の設置の目的に反するおそれがないか、②公文書館の業務に支障をきたすおそれがないか、③第三者のプライバシー等の人権を侵害するおそれがないか、等の要件を審査し、可否を決定します。

申請手続きの説明や申請書等の様式は、当館公式ウェブサイト内「閲覧室と資料のご利用方法」に詳しく記載しておりますので参考とさせていただきます。直接当館カウンターまでお持ちいただくか、郵送またはメールにて申請していただきますようお願いいたします。

なお、許可については一週間程度時間を要しますので、期間に余裕を持って申請をお願いします。

【中田暁】

県政映画に見る八郎潟・大潟村

国内二番目の広さを誇った八郎潟の干拓については、幾度か話に上がりましたが、昭和32年度に着工となりました。以降長い年月をかけて大潟村が誕生したのです。

当館で保存している県政映画の中に、いくつか映像が残されています。干拓工事前に開催された漁民大会では立錐の余地もない状態で、近隣漁民の関心の高さがうかがえます。小畑知事も交え、補償問題等について話し合いがなされました。

昭和27年には八郎潟干拓調査事務所が設けられ、世界銀行調査団や技術者の視察があり、干拓への第一歩を踏み出しました。計画当初は漁民たちの反対もありましたが、漁業よりも多くの利益を生む農家になること、補償が十分なされることで賛成へと向かっていきました。

起工式に先立ち、八竜神社前で干拓の早期完遂の祈願祭と、湖で命を失った人々の慰霊祭が行われました。起工式には内外の関係者およそ千人が集まって盛大に行われ、世紀の大事業の着工を祝いました。すでにできあがった干拓地では、

初めての大型機械化作業による稲作の実験農場が設けられ、将来干拓地で行う種まきから収穫までの一貫作業を実験しています。

昭和39年、県では干陸によって新しく生まれる村を大潟村と名付け、臨時県議会に諮りました。八郎潟干陸と大潟村の誕生を祝う記念式典の様子も見るができます。

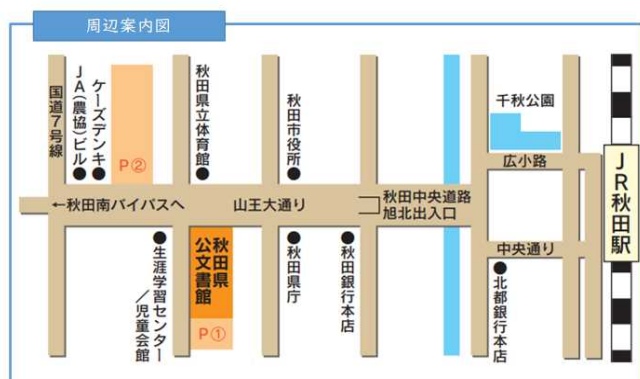
入植者を育成する訓練所の開所式及び入所式の様子も残されています。北は北海道から南は鹿児島まで、競争率10倍の狭き門をくぐった58人は緊張の面持ちで出席しました。訓練生は大型農業に対処するため、全員が大型特殊免許を取るために勉強します。一年の訓練を終えた修了式の様子も映像に残っています。

昭和43年には、希望の役場の竣工と入村式が行われました。保育所や駐在所の開設、消防団の結成など本格的な村づくりが進んでいます。

本館では、大潟村に関して企画展を8月21日から9月28日(前期)、10月2日から11月3日(後期)の間、展示を行いますので、そちらにも足をお運びください。

【中田暁】

DVD-00002 「漁民大会とオランダ政府代表の視察」(昭和31年)	DVD-00072 「干拓すすむ八郎潟」(昭和40年)
DVD-00003 「干拓を待つ八郎潟」(昭和31年)※	DVD-00087 「八郎潟入植訓練はじまる」(昭和41年)
DVD-00004 「河野農相八郎潟を視察」(昭和31年)	DVD-00098 「八郎潟第1次入植訓練終わる」(昭和42年)
DVD-00013 「水下のひき網」(昭和33年)※	DVD-00100 「新春を迎えた大潟村」(昭和43年)
DVD-00018 「八郎潟干拓工事始まる」(昭和33年)	DVD-00106 「進む村づくり～大潟村」(昭和43年)
DVD-00021 「八郎潟干拓工事」(昭和34年)	DVD-00115 「八郎潟干拓工事完成」(昭和44年)
DVD-00051 「干拓工事進む」(昭和38年)	DVD-00166 「特集…大潟村」(昭和51年)
DVD-00055 「干陸はじまる八郎潟」(昭和38年)	DVD-00172 「3年目を迎えた小麦の収穫」(昭和52年)
DVD-00064 「大潟村誕生」(昭和39年)	※は映像が途中で途切れ音声のみ



編集発行：秋田県公文書館（秋田市山王新町14-31 県立図書館と併設）
 電話 018(866)8301 FAX 018(866)8303 最寄りバス停：県立体育館前
 URL <https://www.pref.akita.lg.jp/kobunsyo/>

編集後記

今年度から「公文書館だより」を担当することになりました。編集作業を担当するのは今回初めてのため、過去の資料等を見ながら悪戦苦闘して取り組んでおります。今後ともよろしく願います。

公文書館は、歴史的な資料として重要な公文書、古文書等の記録の保存、利用などに関する事務を行うことを目的として設置された施設です。馴染みが薄く感じる面もあるかもしれませんが、皆様に親しみを持ってもらおうように努力してまいります。

【鈴木久】